

私のすすめるこの1冊

谷口和成（理学科 准教授）

『ことばを鍛えるイギリスの学校 国語教育で何ができるか』 山本麻子 著

本書では、イギリスの教育政策やその考え方、理念、そこに至る背景が、現地での著者の3人の息子の保育園から大学までの経験や著者自身の大学院での学生としての経験とその後の中等学校や大学での仕事の体験を通して、わかりやすく紹介されています。特に、国語教育については、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」がどのような信念に基づいて、国の政策として、また社会の要求として、どれほど系統的に、綿密に、手厚く行われているかが具体的に紹介されています。

ところで、理学科の教員が国語教育の本を紹介することに不思議に思われた方も多いと思います。実はこの数年、イギリスの理科教育、特に中学・高校の物理教育について調査しているのですが、イギリスの理科教育は日本に比べて伝統的に探究的な活動が豊富に設定されていて、しかも同年代の日本の生徒の現状と比較すると、内容が高度すぎるのではないかとと思われる活動がしばしばあります。ただし、ここでいう高度さとは知識的な意味ではなく、言語活動としての高度さです。たとえば「原子力や放射線の利用の是非」、「(科学的な根拠のない)代替医療の効果」など、明確な正解のない(オープンエンドな)課題とそれに対するさま

ざまな立場の見解が予め示された上で、生徒自身はどのような立場をとるか、個人またはグループで文献を調査したり必要な実験を計画し検証したりなどして、自分たちなりに科学的な証拠を集めて論理構成をして結論を出し、それを発表したり、ディベートにより正当性を競い合ったり、個人のレポートにまとめたりする活動です。このような探究的な活動は、日本の理科教育でも推奨されてはいるのですが、実態としてはほとんど行われていません。その理由としては、生徒が慣れていない、指導ができる教員が少ない、(カリキュラムに)時間的余裕がないことなどが挙げられます。このような日本の現状に対して、イギリスではなぜそのような活動が成立しているのか、理科教育的な側面からだけでは見えてこなかった疑問に、本書は見事に答えてくれます。それと同時に、イギリスの理科教育は、徹底した国語教育を基盤として成立していることがよくわかり、調査している立場としては腑に落ちた感があります。

新しい学習指導要領では「理数教育の充実」、「言語活動の充実」が特色として掲げられていますが、特に理数系の教員や教員を目指す人には、前者のみでなく、後者との関わり方についていい示唆を与えてくれる本になると思います。

『ことばを鍛えるイギリスの学校 国語教育で何ができるか』 著者：山本麻子

発行者：岩波書店 発行年：2003年 購入手続き中

レポート

理科領域自然環境教材論 作品展 「0.01m²の風景」

2010年7月8日～22日（終了）

この授業では、穴掘り体験や土器づくりなど、ふだん受講生が体験することができないような自然体験・ものづくりにチャレンジします。授業の一環で、受講生が心に抱く風景を再現する「ミニジオラマづくり」に取り組みました。ジオラマづくりを通して、ふだん何気なく見ている自然への興味・関心を深めることが目的です。ジオラマ作成用の専用素材は使用せず、スポンジ、毛糸、川砂、紙粘土など身近にあるものを使用して10cm×10cmの木製の板に、風景を組み上げていきます。針金を使って枝を再現したり、水の透明感を出すために木工用ボンドやニスを使ってみたりと、それぞれに工夫が見られました。田舎の風景、秘密基地、吊り橋のある風景など受講生が表現する風景は様々。「0.01m²の空間にこれだけの奥行きを表現できるのか」と、授業担当者の私も驚きました。34の風景を通して34の心に触れることができた貴重な経験となりました。（理学科・中野英之）



←ジオラマの一例

<附属図書館より>

展示された場所がIPC端末のあるグループ学習室の前だったので、パソコン利用の時に足を止めて感嘆の声をあげる学生をよく目にしました。

目にも楽しい展示に図書館を活用いただき、ありがとうございました！（スタッフ・角野）

図書館からのお知らせ

夏季休業に伴う長期貸出について

下記のとおり長期貸出をしますので、ご利用ください。

| 対象 | 院生・教職員 | 学部生 |
|-------|-----------------|-------------------|
| 貸出期間 | 7月9日（金）～9月6日（月） | 7月23日（金）～9月21日（火） |
| 貸出冊数 | 12冊 | 7冊 |
| 返却期限日 | 10月4日（月） | |



- * 卒業予定者の返却期限は9月10日（金）です。
- * 視聴覚資料は除きます。
- * 長期貸出図書については、貸出の延長はできません。
一度返却してから翌日以降貸出の手続きをとってください。
- * 一般利用者・卒業生の方の長期貸出はできません。

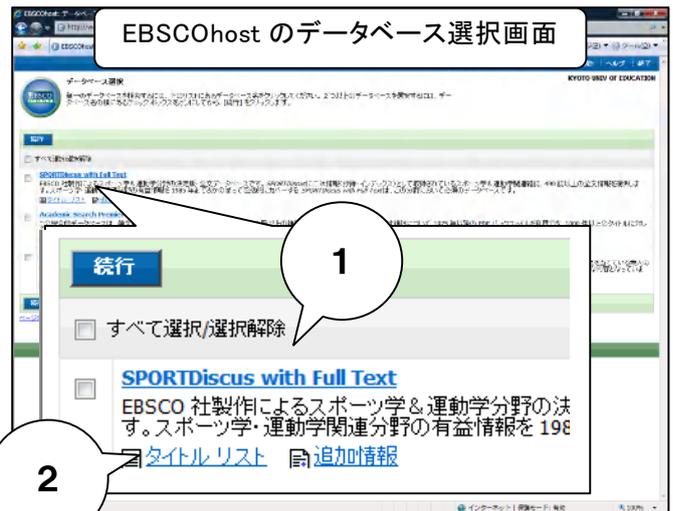
“SPORTDiscus with Full Text” 無料トライアル中です！

SPORTDiscus with Full Text とは？

…スポーツ学・運動学分野に関する海外の論文情報を収録したデータベースです。
雑誌約 1400 誌分を収録、うち 400 誌以上の電子ジャーナルが閲覧可能です。

附属図書館ホームページ右側、情報検索の項目の「EBSCOhost」から利用できます。
学内 LAN (IPC 端末、図書館端末、研究室の端末等) からアクセスして下さい。

- ① データベースのタイトルをクリックすると、SPORTDiscus の検索画面が開きます。
- ② 収録雑誌タイトルを知りたいときは、「タイトルリスト」をクリックして下さい。



2010年9月29日まで！
ぜひご利用下さい！！

私のすすめるこの1冊コーナー

図書館ニュースで紹介された本を一堂に集めたこのコーナー、
入館ゲートのすぐそばに設置中です。どうぞご覧下さい！



～ 図書館開館スケジュール ～

| 2010年 8月 | | | | | | |
|----------|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 休 | ● | ● | ● | ● | ▲ | 休 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 休 | ▲ | ▲ | 休 | ▲ | ▲ | 休 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |
| 休 | 休 | 休 | 休 | ▲ | ▲ | 休 |
| 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 |
| 休 | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | ▲ | 休 |
| 29 | 30 | 31 | | | | |
| 休 | ▲ | ▲ | | | | |

| 2010年 9月 | | | | | | |
|----------|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | | | 休 | ● | ● | ▲ |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 休 | ● | ● | ● | ● | ● | ▲ |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 休 | ● | ● | ● | ● | ● | ▲ |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 休 | 休 | ● | ● | 休 | ● | ▲ |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | |
| 休 | ● | ● | ● | ● | | |

<カレンダーの見方>

| | |
|----|------------|
| 日付 | 9:00～21:00 |
| ● | |
| 日付 | 9:00～17:00 |
| ▲ | |
| 日付 | 休館日 |
| 休 | |

8月11日、9月1日は館内整理のため休館

8月16～18日は夏期一斉休業のため休館

8月6日～8月31日は休業期間のため、平日は9:00～17:00、土曜は休館

“基礎的科目における「地理学」の導入部分の工夫”

香川貴志(社会科学科 教授)

京都教育大学紀要 No.116 p.53-65 2010年3月

高等学校の地理歴史科において「地理」が選択科目になってからすでに久しい。本学に入学する学生諸君の履修歴をみても、高等学校で「地理」を履修した者は年々低下の一途をたどり、最近では約1/3になっている。そして、この傾向は特に文系諸領域において顕著である。しかし、中学校社会科において「地理的分野」は必修であるし、小学校社会科では地理的な内容が約8割にも及ぶ。こうした環境の下で上質な社会科または地理歴史科の教員を輩出していくには、大学生に地理や地理学の面白さに目覚めさせなければならない。

本稿はそうした危機感を持っている著者が、しばしば共通教育科目や教職科目と専門科目を兼ねている基礎的科目としての「地理学」(本学では地理学概論がこれに相当する)の導入部で実施している授業について述べたものである。まず大切なのは、地理あるいは地理学の基本は地図にある、地図は日常生活と切り離せない、これらを受講生に知ってもらうことである。そのために、世界全図の白地図を書かかせたり、地域イメージのアンケートに答えさせたりして、参加型の授業を設計している。これらは全て授業時間内にレポートとして提出させる。緊張感も得られるし、「代返」もできないので一石二鳥である。

ところで、約2/3が高等学校で「地理」を履修していない受講生諸君は、こうすることで実際に地理や地理学が好きになるのだろうか。私の手応えは、「大好き」になる者は稀少であるものの、「大嫌い」あるいは「嫌い」だった者が「まあまあ」や「好き」に変わるケースは極めて多いというものである。「なぜ嫌いだったのか」と問えば、多くの者が「地名、物産などを暗記するのが億劫だった」と答えるのだが、彼らの不満は初等・中等教育における「地理」授業の貧困さ、あるいは受験対策に走るがゆえの乾燥した授業への批判でもある。

少なくとも、私は学生諸君に「くだらない地理」を教壇で増殖させて欲しくない。そのためには、まず学生諸君に「地理は面白い!」と感じさせる必要がある。それができる教員の養成は生易しくはないが無理ではないし、研究にも負けず劣らず相当に面白い仕事でもあると最近強く思っている。本稿はこうした思索と実践の記録である。

全文は京都教育大学紀要116号に掲載されています。

後日、京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/> に掲載予定です。

●京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>

●携帯版図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>

下記のQRコードからもアクセスできます



京教図書館 News No.119 (2010年8月号)

発行日:平成22年8月2日

編集発行:京都教育大学附属図書館

内容に関するお問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp